

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-103	小学校	国語科	国語	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 109・110	新編 あたらしい こくご 一上・新編 あたらしい こくご 一下		

1. 編修の基本方針

つなぐ。

「言葉の力」が、新しい君へ。

予測困難な社会において、次の時代を生きる子どもたちに必要なのは、揺るぎない確かな「言葉の力」です。人は、言葉によって世界とつながり、言葉によって世界を広げていきます。「言葉の力」は未来を拓く力そのもの。今の自分を未来の自分へとつなぐために、確かな「言葉の力」を育む。そんな願いを込めて新しい教科書を編修しました。



特色

1

国語の学びが止まらない

子どもたちの「学びたい！」に応える教科書

新しい学びとの出会いは、いつだってわくわくするもの。学ぶ喜びを、全ての子どもに感じてほしい。「国語大好き！」という声があふれる教科書を目指しました。

特色

2

ぐんぐんのびる、国語の力

だれ一人取り残さず、確かな学力をつける教科書

だれもが使える「言葉」。だからこそ使い方が難しい「言葉」。言葉と向き合い、確かな「言葉の使い手」になってほしい。そのための新しい国語の学習を提案します。

特色

3

未来を生きる君だから

デジタル時代の子どもたちを支える教科書

デジタルを使って、自在に情報をとらえ、思考をみがき、言葉をつむぐ。そんな力を育んでほしい。未来という大平原に向かって、子どもたちとともに歩いていく教科書です。

特色
1

国語の学びが止まらない

子どもたちの「学びたい！」に応える教科書



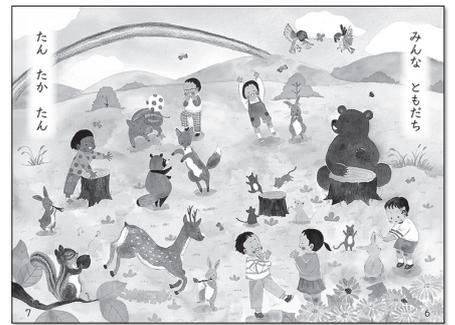
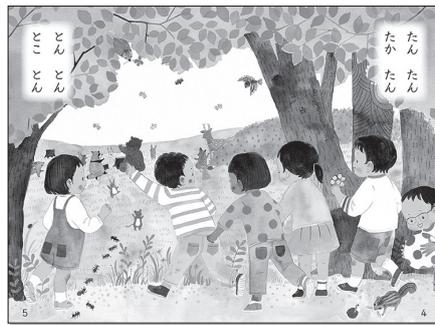
1 国語学習の始まりに、期待感と安心感を



「きこえるよ」上 p.1-7

入門期冒頭教材「きこえるよ」で、リズムカルな言葉を声に出して楽しみながら、国語学習が始まります。「たんたん たたたん」というリズムのよさに加えて、最後の「みんなともだち たんたかたん」という言葉が、他者とつながる喜びと大切さを語りかけてくるお話です。

絵から見つけたものを伝えたり、「たんたん」と手拍子を打ちながら読んだり、言葉を全身で楽しめるように工夫しました。心が優しく包まれるような明るく温かみのあるイラストが、子どもたちに安心感を与えます。

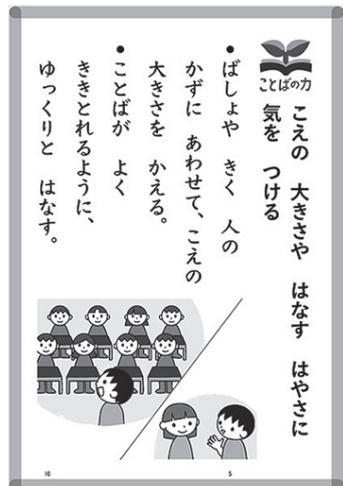


2 何を学ぶのが、一目瞭然

その単元で身につけたい力を「ことばの力」として学習過程の中核に位置付け、図解・イラストとともに明示しました。学習のポイントがひと目で分かります。(1年上巻除く)



「子どもをまもるどうぶつたち」下 p.113



「すきなきょうかをはなそう」下 p.61

3 学習をともに進めるキャラクター

一年間を通して、いっしょに学習する4名の子どもを登場させています。同じクラスの友達のように感じることで、ともに学習し、成長していく実感を得られるようにしました。「ことばの力」のキャラクター、コトハも学びをサポートします。



もり けんた



きくち あかり



しみず いつき



かわの めい



コトハ

特色
2

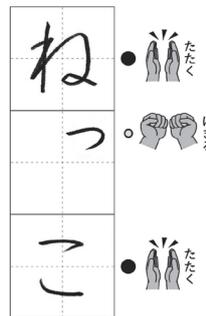
ぐんぐんのびる、国語の力

だれ一人取り残さず、確かな学力をつける教科書



1 つまずかせない、先回りの支援を

入門期の中でも習得が難しいといわれる、促音、長音、拗音などの特殊音節に関する学習に、特別支援教育の知見から生まれた指導法 MIM（多層指導モデル）を取り入れました。音節の特徴を簡単な動作と記号で表して、音と文字の関係を体感的に捉えることで、つまずきやすい子どもの理解を促します。だれ一人取り残さない、国語の学習を実現させます（「のばすおん」上 p.66-67, 「いしやといしゃ」上 p.76-77）。



「ねことねっこ」上 p.58-59

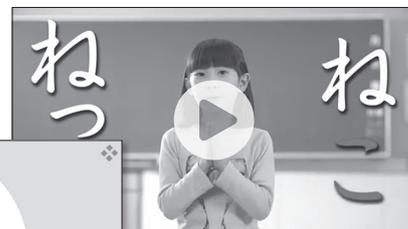


2 学びを保障する QR コンテンツ

言語教材に関連した QR コンテンツを拡充しました。上記の特殊音節の動画や、基本的な文の構造が学べるアニメーション、漢字の練習問題などを用意しました。対面授業、オンライン授業、家庭学習などさまざまな場面で活用でき、一人一人の習熟度に合わせた「個別最適な学び」を支えます。



コンテンツ「④をつかおう」



コンテンツ「ねことねっこ」

特色
3

未来を生きる君だから

デジタル時代の子どもたちを支える教科書

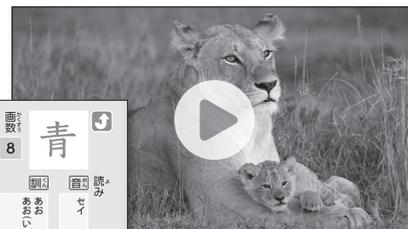


1 デジタルの力で、学びを広げる

計 63 箇所 の 2 次元コードから、学習に役立つさまざまな QR コンテンツにつながります。「読むこと」教材の資料動画は、単元導入で活用することで児童の意欲を引き出します。また、年間を通して活用できる「しりょうしつ」には、漢字の読み方や筆順、使い方などが分かるコンテンツ「小学校で習う漢字」や、「げんこうようしのつかいかた」などの資料がまとめられています。



コンテンツ「小学校で習う漢字」



コンテンツ「子どもをまもるどうぶつたち」

2 デジタル時代だからこそ、本に親しむ

端末一つで何でもできる時代だからこそ、本を手にして読む経験を大切に考えました。読書単元「本はともだち」を年3回設けて多くの本を紹介し、本を読む楽しさを友達と分かち合う協働的な活動も取り入れて、読書に親しむ習慣と態度を育みます。

7月	としょかんはどんなところ
10月	一ねんせいのはんだな 著名人の読書エッセイと 34 冊の紹介図書
12月	すきなおはなしはなにな 読書活動と 10 冊の紹介図書
通年	こんな本もいっしょに 「読むこと」単元の関連図書

計 95 冊

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所（頁）
全体	●教材や題材の選定にあたっては、学年を通して多様な内容やテーマのものを取り上げるように配慮し、幅広い知識や教養を身につけられるようにしました。（第1号）	
入門冒頭教材 「きこえるよ」	●友達や動物たちとの触れ合いを描いた教材を通して、豊かな情操を培い、他者と協働したり関係を結んだりすることを大切にす態度を養います。（第1号・第3号）	上1-7
4月教材群	●自己紹介や挨拶、鉛筆の持ち方や、話したり聞いたりする態度など、小学校での生活や学習の基盤作りとなる学習を通じて、幼児期に育んだ資質・能力を大切にしながら、小学校教育との円滑な接続を図ります。（第1号）	上1-23
言葉の特徴や使い方	●言葉の特徴や使い方および漢字に関する学習を通じて、言葉や漢字について興味・関心を持ち、幅広い知識を身につけることができます。（第1号）	上30-31 上126-129 下20-23ほか
我が国の言語文化 むかしばなしをたのしもう ことばであそぼう としょかんはどこなところ 一ねんせいのほんだな すきなおはなしはなにかな	●昔話に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養います。（第5号） ●図書館を利用する学習活動を通じて、決まりやマナーを守って利用する態度を養います。（第3号） ●多様な図書紹介や読書活動を通して、幅広い知識と生涯にわたる読書習慣が身につけることができます。（第1号）	下90-93 下62-63 上94-95 下24-29 下84-87
話すこと・聞くこと みんなにはなそう きいてつたえよう はなししたいなききたいな なにに見えるかな すきなきょうかをはなそう 小学校のことをしょうかいしよう	●個々の興味や関心、価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養います。（第2号） ●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動を通じて、その楽しさや大切さに気づくことで、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養います。（第3号） ●身近な自然との触れ合いや観察の中で気づいたことを表現する活動を通して、生命を尊び、自然を大切にす態度を養います。（第4号）	上32-35 上56-57 上110-113 下30-35 下58-61 下116-119
書くこと こんなことしたよ ことばあそびうたをつくらう えにっきをかこう はっけんしたよ 「のりものカード」をつくらう おもい出してかこう おはなしをかこう 一年かんのおもいでブック	●感性豊かに表現することを通じて、創造性を培います。（第2号） ●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動を通じて、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養います。（第3号） ●身近な自然との触れ合いや観察の中で気づいたことを表現する活動を通して、生命を尊び、自然を大切にす態度を養います。（第4号）	上78-81 上96-99 上102-105 下38-41 下52-55 下64-67 下94-99 下140-143
読むこと（文学的文章） あめですよ とんこととん おおきなかぶ あるけあるけ／き かいがら ありがとう サラダでげんき おとうとねずみチロ みずのたいそう スイミー	●家族や友人との心の交流や他者理解の大切さを描いた文学的文章の読解を通じて、豊かな情操や道徳心を培い、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養います。（第1号・第3号）	上24-29 上38-43 上82-93 上106-109 上118-125 下巻頭 下5-19 下69-82 下88-89 下121-137
読むこと（説明的文章） さとうとお どうやってみをまもるのかな いるいるなふね 子どもをまもるどうぶつたち	●食べ物や乗り物、動植物など、児童の関心が高い題材を取り上げた説明的文章の読解を通じて、知識や教養、真理を求める態度を養います。（第1号）	上46-53 上68-75 下43-51 下103-113
付録	●学習に役立つ資料を用意し、主体的に学習に取り組む態度を養います。（第2号）	下130-144

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

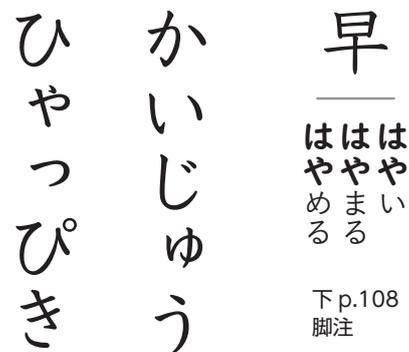
1. 全ての児童が学習しやすい紙面作りへの配慮

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 学習に集中して必要な情報を捉えられるように、紙面内の文字や図版などの区別を明確にし、配置や色使いを工夫しました。
- フォントは、文字指導にも適した独自開発の教科書体を中心とし、特に1・2年生においては、読みやすさを考慮して少し太めの書体を使用しました。漢字の読みなど文字が小さい箇所には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用しました。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の研究者に専門的見地からの監修・校閲を受け、全ての児童にとって読みやすく使いやすい教科書となるように配慮をしています。
- 語のまとまりを捉えやすくするために、文節ごとに分かち書きを用い、読みやすい位置で改行しました。
- 上巻では、促音「っ」と拗音「ゃ・ゅ・ょ」の文字をこれまでより一回り小さくして、他の文字との差を明確にしました。手書きの形に近く、書く指導にも役立ちます。
- 漢字の読みと送り仮名は、これまでの示し方を見直して、より重要な情報である読みを強調しました。
- 物語・説明文教材では、5行ごとの行数字の間に1行ごとの点を示すことで、特定の行を見つけやすくしています。
- 特別支援教育に有効な機能が充実した「学習者用デジタル教科書」を全書目で発行予定です。
- 弱視の児童のために、教科書と同一内容の「拡大教科書」および「学習者用デジタル教科書」を発行予定です。



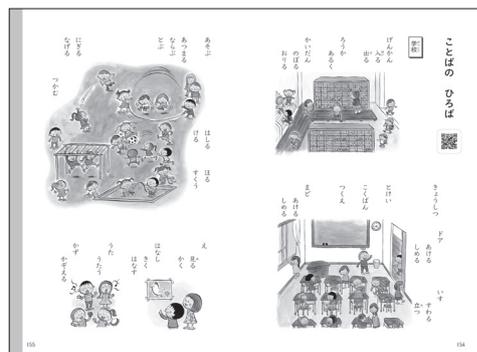
「いしやといしゃ」上p.76

③ 多様性への配慮

- 話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別や人種、身体的特徴、家庭環境等に偏りがないように配慮しています。

④ 外国人児童など、日本語指導が必要な児童への配慮

- 「ことばの広場」(下 p.154-157) で、日常生活や学習活動に必要な語彙を一覧にまとめています。さらに全学年分の「ことばの広場」をまとめた QR コンテンツを用意し、児童の日本語習熟度に合わせて必要な語彙を選んで見ることができるようになっています。
- 文字の習得において特につまづきやすい特殊音節(促音、長音、拗音)の学習では、視覚化と動作化を取り入れて、音と文字の関係を体感的に捉えられるように工夫しています。同様の工夫を、助詞「が」「は」「を」「へ」を使った文作りの学習にも取り入れています。日本語指導が必要な児童にも効果的です。



「ことばの広場」下p.154-155

2. 教育の情報化への取り組み

- 情報教育の研究者や実践者に専門的見地からの指導や校閲を受け、コンピューターを活用して、教科の学びを効果的に高めることができるようになっています。
- 教科書単元と連動した QR コンテンツを豊富に用意しています。対面授業やオンライン授業だけでなく家庭における自学自習にも活用できます。

3. 言語文化の豊かさを学ぶ教材の充実

- 伝統的な言語文化単元「つたえたいことのは」では、日本語の美しさ、豊かさに触れられるようにしました。1年生では昔話を取り上げ、絵を見る、自分で読む、読み聞かせを聞くなど、楽しみながら、我が国の文化への理解を深めます。
- 「ことばであそぼう」(下 p.62-63) では、回文や駄洒落、和歌の折句の流れを継ぐ「あいうえお作文」など、古くからある言葉遊びを取り上げました。日本語の楽しさを発見できる教材です。



「むかしばなしをたのしもう」下p.90-91

4. 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶのか(「言葉の力」)を明示するとともに、児童の活動や思考の流れを、ノート例や吹き出しなどで具体的に示しています。指導計画・評価計画が立てやすく、無理なく指導できます。
- 文字の書き方や姿勢など、見るだけで児童が理解できるようにデジタルコンテンツを多く準備しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-103	小学校	国語科	国語	1
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 109・110	新編 あたらしい こくご 一上・新編 あたらしい こくご 一下		

1. 編修上特に意を用いた点や特色



国語の学びが止まらない

子どもたちの「学びたい！」に応える教科書



1 学習の流れが、分かる！見える！

（単元扉）

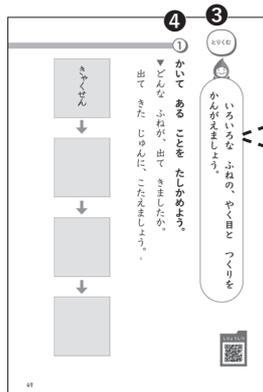
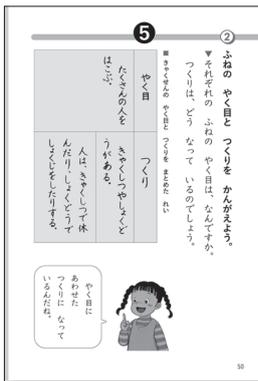


「言葉の力」を核に、てびきでは具体例とともに学習活動の手順を丁寧に示し、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」が、子ども自身にも、しっかりと分かるようになっていきます。

単元扉では、イラストや写真に加え、教材へ誘う呼びかけの文、動画コンテンツなどによって、学習への意欲が高まるようにしました。

- ① 「ことばの力」で、この単元で何を学ぶのかを見通します。
- ② 呼びかけによって、子ども自身の中に、教材へ向かう意識が生まれます。

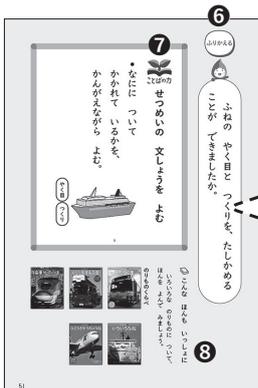
とりくむ



順を追って学習活動に取り組める構成にしました。

- ③ 初めに単元を通した**学習のめあて**を提示します。
- ④ 学習過程に沿った課題を示します。
- ⑤ 学習活動を子ども自身が具体的にイメージできるよう、ノート例や吹き出しを示します。

ふりかえる

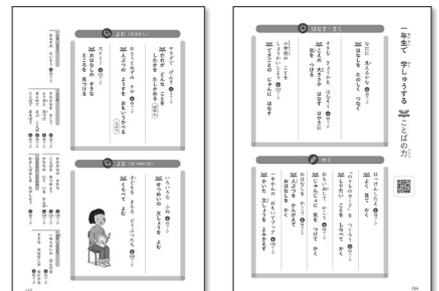


学びの定着には、子ども自身が、学んだことをどう自覚するかが重要です。

- ⑥ 「ふりかえる」では「ことばの力」をふまえて、振り返りの視点を焦点化しました。
- ⑦ 「ことばの力」で、イラストとともに学習のだいじなポイントを示します。
- ⑧ 「こんな本もいっしょに」で、教材に関連する本を紹介。読書へ誘います。

2 つながる「ことばの力」

下巻の巻末に、1年間で学習する「ことばの力」の領域別一覧を付けました。子ども自身が学びのつながりを意識できます。



「いろいろなふね」下p.43-51

「一年生で学ぼうすることばの力」下p.164-165

特色
2

ぐんぐんのびる、国語の力

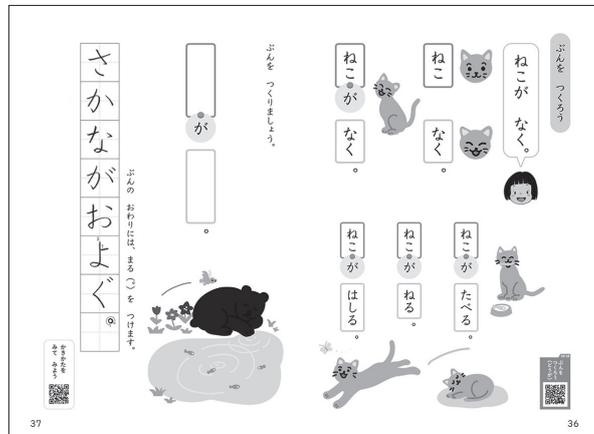
だれ一人取り残さず、確かな学力をつける教科書



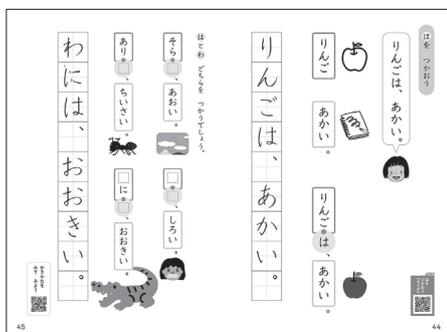
1 スモールステップで無理なく着実に

上巻では、文字や各領域の学習の初歩的な事項を、スモールステップで着実に身につけられるようにしました。

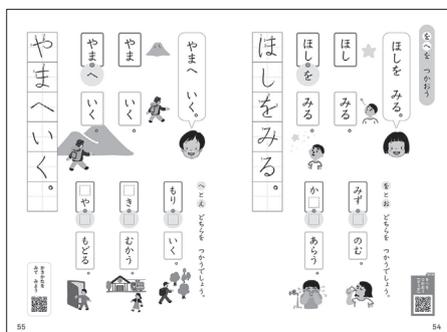
中でも、助詞の「が」「は」「を」「へ」の使い方、「を」と「お」、「へ」と「え」の区別などの学習については、特に配慮を加えました。これらは文の構成の基本であり、子どもたちの思考力や表現力の基礎を担う大事な部分ですが、習得の難しい部分でもあります。そこで、学習の進め方を統一しながら少しずつステップアップし、図解やイラスト、QRコンテンツなども取り入れて丁寧に扱いました。



「ぶんをつくろう」上 p.36-37



「はをつかおう」上 p.44-45

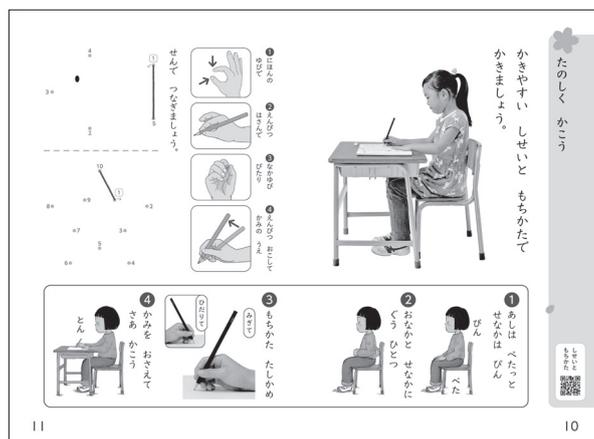


「を(へ)をつかおう」上 p.54-55

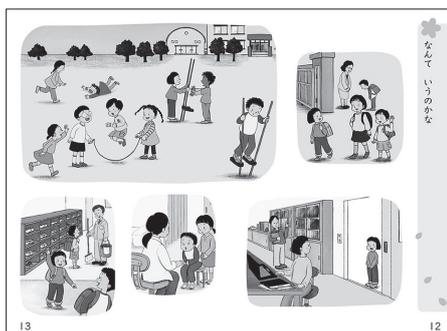
MIMの指導法を参考に、音と文字の関係を抑えていく。まず声に出して文を読んで文節を意識する。次に助詞を除いた文を見て、どの位置に助詞を加えるとよいか考える。

2 幼児教育からつながる確かな学力

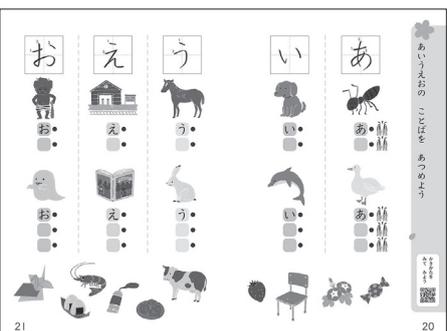
4月教材群(p.1-23)では、幼児期に親しんだ活動や経験を取り入れるなど、スタートカリキュラムを意識した教材の構成・配列を行いました。「たのしくかこう」では、書く姿勢や運筆の練習から始めます。ここでは、左利きの児童に対する配慮も行っています。「なんていうのかな」では、学校生活を送る中で必要な言葉の獲得を目指し、学校生活への適応を促します。子どもたちが、安心感をもって学びに向かっているよう、教材を工夫しました。



「たのしくかこう」上 p.10-11 (書く姿勢、鉛筆の持ち方)



「なんていうのかな」上 p.12-13 (挨拶など)



「あいうえおのことばをあつめよう」上 p.20-21 (言葉集め)

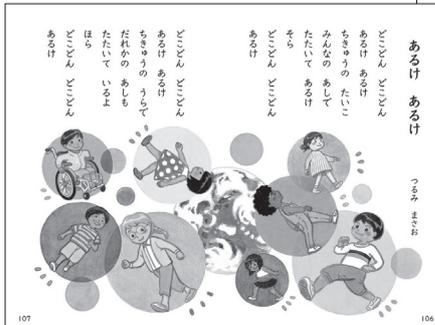


「ほんがたくさん」上 p.22-23 (読み聞かせ)



1 未来の子どもたちへのメッセージ

これからの社会を担う子どもたちには、他者と協働して、SDGsなどの課題に向き合い、主体的に解決する力が必要です。学年の発達段階に応じて、それらの課題に関連する教材や題材を取り上げました。



「あけあけ」上 p.106-107



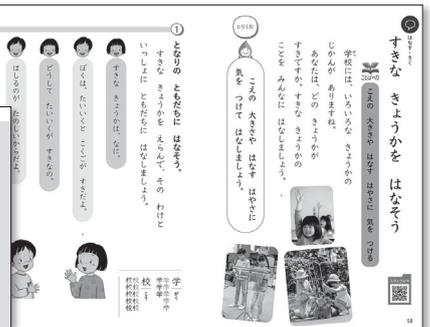
「子どもをまもるどうぶつたち」
下 p.104-105

2 想像力とコミュニケーション力を育てる

自らの「言葉の力」を広げ、コミュニケーション力を育成するための活動を随所に取り入れました。入学してすぐの自己紹介の場面や、互いを知るための対話の活動のほか、てびき中にも、「協働的な学び」を想起させる吹き出しなどを数多く示しました。



「よろしくね」上 p.8-9



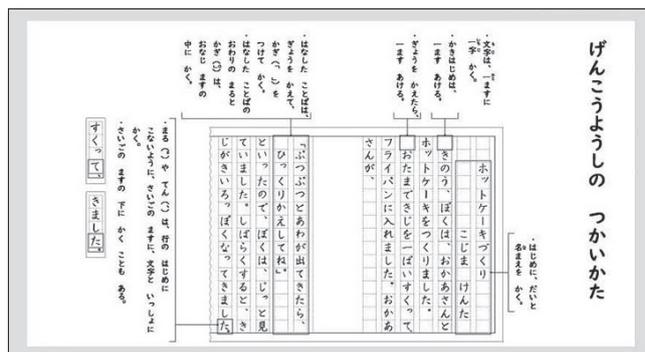
「すきなきょうかをはなそう」下 p.58-59

3 教科書と連動したコンテンツが学びを広げる

教科書と連動したQRコンテンツを豊富に用意しました。「読むこと」教材の資料動画や漢字の練習問題、随時使える資料など、多彩なコンテンツが子どもの学びを豊かに広げます。例えば、動画をきっかけに子どもたちが話し合いを活性化させたり、自分の進度に合わせて練習問題に取り組んだりするなど、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の実現にもつながります。授業や家庭学習への支援として、教員の負担軽減につながることも期待できます。



コンテンツ「いろいろなふね」



コンテンツ「げんこうようしのつかいかた」下 p.66



1年生の
QRコンテンツ

観点別特色一覧

観 点	特色及び該当箇所例（頁）
教育基本法・学習指導要領との対応	<ul style="list-style-type: none"> ●教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いました。 ●小学校学習指導要領（国語科）に示された各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織・配列しました。
学びの系統性	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通じて段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。 ●単元ごとに学習を通じて育成する資質・能力を「ことばの力」として明確化し、6学年を通して系統的に配列しました。イラストや図解を取り入れて視覚的にも理解しやすい工夫をしています。 ●「言葉の力」の相互のつながりを確かめたり意識したりできるように、下巻巻末には「一年生で学ぼうすることばの力」として、一年生で学習した「ことばの力」を領域ごとに整理して示し、学びのつながりを可視化しました。
単元構成	<ul style="list-style-type: none"> ●下巻では学習過程を「見とおす」→「とりくむ」→「ふりかえる」として、課題解決的な構成にしました。単元扉が「見とおす」の役割を担っています。 ●単元冒頭でその単元の「ことばの力」を提示し、何を学ぶかを明確にして、見通しを持って学習に取り組めるようにしました。 ●学習の展開に応じて「ことばの力」に関わる大切な視点や観点を示唆する問いを投げかけ、言葉による見方・考え方をしっかりと働かせながら学習に取り組めるようにしました。 ●友達との協動的な学びや学び合い、考えの共有の場面を多く設定し、対話的な学びを展開できるようにしました。 ●単元末「ふりかえる」では、「ことばの力」をふまえて、振り返りの観点を焦点化しました。何が分かったか、何ができたようになったかという学習の価値付けをするとともに、今後への課題を見いだせるようにしました。
知識・技能の習熟・定着	<ul style="list-style-type: none"> ●知識及び技能については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着が図れるようにしました。 ●文字の習得を確実にするため、下巻にひらがなおよび既習漢字の復習・確認のページ「かんじ（ひらがな）をつかおう」を設けました。（下 p.42、p.83） ●語彙を豊かに広げる学習を設定しました。（上 p.20「あいうえおのことばをあつめよう」、p.96「ことばあそびうたをつくらう」、下 p.62「ことばであそぼう」、下 p.114「ことばをあつめよう」など）
思考力、判断力、表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件にそった課題解決的な学習を通して、必要な思考力、判断力、表現力等が身につくようにしました。 ●思考を広げたり整理したりするツールとしてのノートやメモ、カードなどを重視し、随所に例示しました（下 p.18、p.39、p.50 など）。また、学習の基盤として特にノートを重視し、「こくごのノートのつくりかた」を設けました（上 p.130-131）。 ●児童の発達段階を考慮しつつ、単元のねらいに応じた多彩な言語活動を設けました。
主体的に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●見通しと振り返りを重視しました。 ●単元冒頭に「ことばの力」を示して、何を学ぶのかという見通しを持てるようにしました。単元末の「ふりかえる」では、結果だけでなく過程への評価を促すような文言を示しました。
程度・分量・配列	<ul style="list-style-type: none"> ●入学後の4月を、各校のスタートカリキュラムに応じて、生活科を中心とした合科的な指導や柔軟な時間割編成に対応できる構成としました。（上 p.1～23） ●教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げました。 ●学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量とし、領域ごとのバランスにも配慮しました。また、単元ごとに、内容に応じて適切な時数を配当しました。 ●領域ごとの学習のつながりに配慮するとともに、領域相互の関連にも配慮しました。 ●複式指導に配慮して、第1学年と第2学年でなるべく同じ時期に同じ領域の学習を位置付けるように配列しています（第1学年の入門期を除く）。
幼児教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児期の遊びを通じた学びの経験を生かして、入門期冒頭教材「きこえるよ」では、リズムのよい言葉を楽しみながら学びを始められるようにしました。友達といっしょに動物と楽しく遊ぶ姿を描いた、明るく温かみのあるイラストが、子供たちに安心感を与えます。 ●4月教材群（p.1～23）は、幼児期にも経験してきた言葉遊びや読み聞かせなどを取り入れながら、小学校での学習の基盤作りに役立つ教材を配しています。
他教科関連	<ul style="list-style-type: none"> ●各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的な指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。
特別支援が必要な児童への配慮（ユニバーサルデザインを含む）	<ul style="list-style-type: none"> ●学習に集中して必要な情報を捉えられるように、紙面内の文字や図版などの区別を明確にし、配置や色使いを工夫しました。 ●語のまとまりを捉えやすくするために、文節ごとに分かち書きを用い、読みやすい位置で改行しました。 ●文字や語を正確に読む基礎を学ぶ段階において特につまづきやすい特殊音節（長音、促音、拗音など）や助詞（は、へ、を）について、特別支援教育の見地と実践の成果を生かした指導法を取り入れて、スモールステップで体感的に捉えられるようにしました。（上 p.58-59「ねことねっこ」、p.66-67「のぼすおん」、p.76-77「いしやといしや」／上 p.44「はをつかおう」、p.54「へをつかおう」など）。 ●フォントは、文字指導にも適した独自開発の教科書体を中心とし、特に1・2年においては、読みやすさを考慮して少し太めの書体を使用しました。 ●漢字の読みなど文字が小さい箇所には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを使用しました。 ●漢字の読みと送り仮名は、これまでの示し方を見直して、より重要な情報である読みを強調しました。
表記・表現、印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ●文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現としました。表記や用語は統一した基準を設けています。 ●表紙は耐久性に優れた加工を施し、製本は特に堅牢な針金綴じを用いています。 ●用紙は十分な強度を保ちつつ軽量化したものを使用しています。 ●環境に配慮して、再生紙、植物油インキを使用しています。 ●印刷業団体が定めた環境配慮基準を満たした「グリーンプリンティング認定工場」で印刷・製造を行っています。

2. 対照表

該当箇所 (ページ)	図書の内容・構成 (単元名)	学習指導要領の内容				配当時数					配当学期
		知識及び 技能	思考力・判断力・表現力等			知・技	話・聞	書く	読む	計	
			話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと						
上 1	きこえるよ	(1)ク		(1)カ				2	2	一 学 期	前 期
上 8	よろしくね		(1)ア			1			1		
上 10	たのしくかこう	(1)ウ			1				1		
上 12	なんていうのかな		(1)オ			2			2		
上 14	こえをとどけよう		(1)ウ			1			1		
上 16	もじをかこう	(1)ウ			1				1		
上 18	あいうえおのうた	(1)イク			2				2		
上 20	あいうえおのことばをあつめよう	(1)イオ			3				3		
上 22	ほんがたくさん	(3)エ		(1)カ(2)イ				2	2		
上 24	あめですよ	(1)ク		(1)イ(2)イ				4	4		
上 30	ふたとぶた	(1)イウ			2				2		
上 32	みんなにはなそう	(1)ア	(1)ウ(2)ア			4			4		
上 36	ぶんをつくろう	(1)カ		(1)ウ			2		2		
上 38	とんこととん	(1)ク		(1)イ(2)イ				5	5		
上 44	はをつかおう	(1)ウ		(1)ウ			1		1		
上 46	さとうとしお			(1)ア(2)ア				4	4		
上 54	をへをつかおう	(1)ウ		(1)ウ			2		2		
上 56	きいてつたえよう	(1)イ	(1)エ			2			2		
上 58	ねことねっこ	(1)イウ			2				2		
上 60	ことばあそび	(1)オ(3)イ			3				3		
上 62	あひるのあくび	(1)イク			3				3		
上 66	のばすおん	(1)イウ			2				2		
上 68	どうやってみをまもるのかな			(1)ア(2)ア				6	6		
上 76	いしやといしゃ	(1)イウ			2				2		
上 78	こんなことしたよ			(1)ウ(2)ア			5		5		
上 82	おおきなかぶ			(1)イ(2)イ				6	6		
上 94	としょかんはどんなところ	(3)エ			1				1		
上 96	ことばあそびうたをつくろう			(1)ア(2)ウ			5		5		
上 100	かたかなをみつけよう	(1)ウオ			2				2		
上 102	えにっきをかこう			(1)ア(2)イ			6		6		
上 106	あるけあるけ/き	(1)ク		(1)イ				3	3		
上 110	はなしたいなききたいな		(1)アエ(2)イ			5			5		
上 114	かぞえうた	(1)エオ		(1)ウ	3		3		6		
上 118	かいがら			(1)エ(2)イ				6	6		
上 126	かんじのはなし	(1)エ		(1)ウ	3		3		6		
下 5	●おはなしをよもう/サラダでげんき	(1)ウ(2)ア		(1)イ(2)イ				9	9		
下 20	かたかなをかこう	(1)ウ		(1)ウ	1		2		3		
下 24	一ねんせいのはんだな	(3)エ			2				2		
下 30	なにに見えるかな		(1)オ(2)イ			6			6		
下 36	よう日と日づけ	(1)エオ		(1)ウ	2		1		3		
下 38	はっけんしたよ	(1)ウオ		(1)アウ(2)ア			9		9		
下 43	●ふねのせつめいをよもう/ いろいろなふね	(2)ア		(1)アウ(2)ア				7	7		
下 52	「のりものカード」をつくろう	(2)ア		(1)アイ			8		8		
下 56	まとめてよぶことば	(1)オ		(1)ウ	2		1		3		
下 58	すきなきょうかをはなそう		(1)アイ(2)ア			5			5		
下 62	ことばであそぼう	(3)イ			2				2		
下 64	おもい出してかこう	(1)ウ(2)ア		(1)イウ(2)ア			10		10		
下 69	●こえに出してよもう/ おとうとねずみチロ	(1)オク		(1)エ(2)イ				9	9		
下 84	すきなおはなしはなにか	(3)エ		(1)カ(2)イ				6	6		
下 88	みみずのたいそう	(1)ク		(1)イ				2	2		
下 90	むかしはなしをたのしもう	(3)ア		(1)カ				5	5		
下 94	おはなしをかこう	(1)ウ		(1)アウオ(2)ウ			10		10		
下 100	かたかなのかたち	(1)ウ		(1)ウ	2		1		3		
下 103	●ちがいをかんがえよう/ 子どもをまもるどうぶつたち	(2)ア		(1)オカ(2)ウ				10	10		
下 114	ことばをあつめよう	(1)アオ		(1)ウ	1		2		3		
下 116	小学校のことをしょうかいしよう		(1)アウ(2)ア			7			7		
下 121	●すきなところをつたえよう/ スイミー	(1)ク		(1)オカ				11	11		
下 138	かたちのにているかん字	(1)エ		(1)エ	1		2		3		
下 140	一年かんのおもいでブック	(1)キ		(1)エオ(2)ア			9		9		
	ひらがなをつかおう (1~2)	(1)ウ		(1)エ			2		2		
	かん字をつかおう (1~4)	(1)エ		(1)ウ			4		4		
計					43	33	88	97	261		
書写および予備									45		
総計									306		